

1) 対象事業の名称等			
対象事業の名称	事業分野	事業総額	事業実施期間
賑わい創出による創業マインドの育成計画	企業誘致・起業支援	432,794 千円	地域再生計画認定の日から令和 2 年 3 月 31 日（3 ヶ年度）⇒令和 7 年 3 月 31 日へ延長
令和 5 年度事業費	令和 5 年度寄附総額		担当部署
59,421 千円	5,150 千円		地域振興課 生涯学習課

野々市市創生総合戦略推進会議の事業の評価		ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の位置付け
☐ ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の K P I 達成に有効であった	☐ ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の K P I 達成に有効とは言えない	基本戦略 1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～ 施策 1-1 次代を担う産業の創出
		基本戦略 3 魅力的なまちを創る ～地域・広域連携によるまちづくり～ 施策 3-3 ふるさとづくりの推進

2) 対象事業の概要
本市は、図書館と市民学習センターを併設した「学びの杜ののいち カレード」を P F I の手法で整備しており、出会いと交流から賑わいを創出する市民活動拠点として活用している。カレードにおいては、創業に関する蔵書の配置や相談会、講座の開催など、市内における創業希望者から創業後間もない方を総合的に支援することで、市内外の集客を見込む。また、図書館の開館時間の拡大や広域の図書館との連携により、市内外の方を呼び込む。創業支援を中心に、市内外から人を呼び込み、人の魅力を広く伝え、しごとづくり、移住・定住につなげることをめざす。

3) 令和5年度の実施内容

○図書の調達冊数 12,922 冊
(ビジネス支援図書、地域の課題解決に役立つ図書、児童図書等)

○地域の課題解決に役立つ情報を提供する取組み

- ・市民歴史講座 4回開催 参加者 92人
- ・ヤーコン収穫祭(市民活動団体との共催) 参加者 57人

○子どもの読書推進につながる取組み

- ・おはなし会 22回 参加者 415人

○創業支援事業

- ・創業塾(対面形式) 1回開催(3週連続講座) 参加者 21人 修了者数 14人
- ・創業セミナー(オンライン併催) 1回開催 参加者 23人
- ・創業マルシェ(ヤーコンのまちのクリスマスマルシェ)の開催 令和5年12月3日(日)
市の特産品ヤーコンをテーマとしたマルシェの一面に、創業予定者や創業間もない方を対象とした創業者紹介ブースと創業相談ブースを設置した。

市民歴史講座

児童図書

創業セミナー

4) 対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値				〔達成率＝R5 実績値÷R5 目標値×100〕		
K P I ①	創業知識習得講座参加人数（年度内合計）					
	事業開始前 (H28) ⇒ 各年	R 2 実績値	R 3 実績値	R 4 実績値	R 5 実績値	R 5 達成率
	17 人 ⇒ 25 人	13 人 (目標値：25 人)	27 人 (目標値：25 人)	28 人 (目標値：25 人)	44 人 (目標値：25 人)	176%
K P I ②	講座参加者のうち創業した人数（年度内合計）					
	事業開始前 (H28) ⇒ 各年	R 2 実績値	R 3 実績値	R 4 実績値	R 5 実績値	R 5 達成率
	0 人 ⇒ 5 人	1 人 (目標値：5 人)	6 人 (目標値：5 人)	3 人 (目標値：5 人)	5 人 (目標値：5 人)	100%
K P I ③	市立図書館利用者数（年度内合計）					
	事業開始前 (H28) ⇒ 令和6年度	R 2 実績値	R 3 実績値	R 4 実績値	R 5 実績値	R 5 達成率
	60,000 人 ⇒ 500,000 人	248,873 人 (目標値：482,000 人)	299,925 人 (目標値：487,000 人)	305,982 人 (目標値：492,000 人)	329,773 人 (目標値：497,000 人)	66.4%
K P I ④	市外利用登録者数（年度末時点）					
	事業開始前 (H28) ⇒ 令和6年度	R 2 実績値	R 3 実績値	R 4 実績値	R 5 実績値	R 5 達成率
	2,200 人 ⇒ 12,000 人	7,342 人 (目標値：11,400 人)	8,455 人 (目標値：11,700 人)	9,336 人 (目標値：11,900 人)	8,692 人 (目標値：12,000 人)	72.4%
事業の効果						
☐ 地方創生に非常に効果的であった	☒ 地方創生に相当程度効果があった	☐ 地方創生に効果があった			☐ 地方創生に効果がなかった	

5) 実績値を踏まえた今後の方針	
☐ 追加等更に発展させる	(理 由) 「学びの杜ののいちカレード」との連携により、創業支援事業の効果をより高める図書館資料を充実させ、相乗効果を図る。創業塾や創業セミナーを開催することで、創業について考えるきっかけや創業に必要な知識を学ぶ場を提供し、創業の実現につなげるとともに、同じ志を持った仲間づくり・ネットワークづくりにもつなげる。当市の次代を担う創業者の掘り起こしや育成に取り組んでいくためにも、事業を継続する。
☐ 事業内容の見直し(改善)	
☒ 事業の継続	
☐ 事業の継続の中止	
☐ 予定通り事業を終了	

1) 対象事業の名称等		
対象事業の名称		事業実施期間
野々市市まち・ひと・しごと創生推進計画		地域再生計画認定の日から令和 7 年 3 月 31 日（3 ヶ年度）
令和 5 年度事業費	令和 5 年度寄附総額	担当部署
4,179 千円	3,200 千円	企画財政課 地域振興課

野々市市創生総合戦略推進会議の事業の評価		ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の位置付け
☐ ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の K P I 達成に有効であった	☐ ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の K P I 達成に有効とは言えない	基本戦略 1 しごとを創る ～野々市らしい産業の創出～ 基本戦略 2 ひとの流れを創る ～安心して暮らせる環境づくり～ 基本戦略 3 魅力的なまちを創る ～地域・広域連携によるまちづくり～

2) 対象事業
ののいちデジタル田園都市構想総合戦略に掲げる施策に基づく全ての事業

3) 令和 5 年度の実施内容
○商工会振興事業（野々市フードビジネスプロジェクトを通じた商工会の取組みに対する支援）（しごとを創る事業） 市商工会員の飲食店により組織された団体「野々市フードビジネスプロジェクト」の地域貢献と雇用創出の活動を支援するもの。 【キッチンカー派遣事業】 市内の中小飲食店のキッチンカーを市内に派遣することで、飲食店の PR 及び市民との交流につなげる取組みを実施。 派遣先：町内会行事、市商工会駐車場、南ヶ丘病院駐車場 【市産市消事業】 市商工会の若手飲食店経営者たちが市内の休耕地を活用して自ら育てた野菜（タマネギ、ジャガイモなど）を店で提供する取組みを実施。店で使いきれない分は商工会の会員向けに販売している。 【能登半島応援キッチンプロジェクト（ののいち元気食堂）】 野々市市内に二次避難されている被災者の方々と能登半島の郷土料理を一緒に作って食べて懇談することで、繋がりを深める取組みを実施。 ○SDGs 普及啓発事業（魅力的なまちを創る事業） SDGs ゲーミフィケーション教材「THE SDGs アクションゲーム X」について、本市の魅力や課題を反映したオリジナルカード【ののいち版】を開発し、ワークショップやイベント等で活用することで、市全体への SDGs の浸透や推進を図った。

キッチンカー派遣事業

ののいち元気食堂

「THE SDGs アクションゲーム X 【ののいち版】」

4) 対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値
別紙資料 2 の基本戦略 1 ～ 3 の K P I のとおり

事業の効果			
☐ 地方創生に非常に効果的であった	☒ 地方創生に相当程度効果があった	☐ 地方創生に効果があった	☐ 地方創生に効果がなかった

5) 実績値を踏まえた今後の方針	
☐ 追加等更に発展させる	(理 由) 「総合戦略」に基づき、引き続き幅広い分野において地方創生に向けて取り組んでいく。さらに、社会情勢の急速な変化にも柔軟に対応していくため、デジタルの力を活用するとともに、SDGs の推進を全ての取組みに共通する基本的な姿勢とすることにより、地方創生に向けた取り組みの加速化・深化を図っていく。
☐ 事業内容の見直し（改善）	
☒ 事業の継続	
☐ 事業の継続の中止	
☐ 予定通り事業を終了	

1) 対象事業の名称等			
対象事業の名称	事業分野	事業総額	事業実施期間
小中高大連携による持続可能なインパクトシティののいち創生事業	まちづくり	16,400 千円	令和 5 年 8 月 18 日から令和 8 年 3 月 31 日

野々市市創生総合戦略推進会議の事業の評価		ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の位置付け	
☐ ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の K P I 達成に有効であった	☐ ののいちデジタル田園都市構想総合戦略の K P I 達成に有効とは言えない	基本戦略 3 魅力的なまちを創る ～地域・広域連携によるまちづくり～ 施策 3-3 ふるさとづくりの推進	横断的な戦略 新しい時代の流れを力にする 施策 2 S D G s の推進

2) 対象事業の概要
2023 年度 SDGs 未来都市に選定された提案書に基づき、2050 年までの脱炭素社会・循環型社会・ウェルビーイング社会・自然との共存共創社会の実現を見据えつつ、本市の魅力の向上や新たな産業の創出、そして、環境意識の更なる向上を図りながら若者の定住を促進するために、経済・社会・環境の三側面を重視した事業に取り組む。 本事業と SDGs 未来都市の提案書に基づく事業を市内の小学校・中学校・高校・大学と連携し、若者が自分事として環境をはじめとした地域課題を解決する力を身につけることをより効果的に支援しながら、将来像の実現に向けて取り組みを進める。

3) 令和5年度の実施内容

●SDGs 未来都市の推進に向けた各種ワークショップの開催

〔コンポスト〕カードゲームを用い、コンポストに入れて良いものと入れられないものを学び、コンポストの存在を身近に感じるためのワークショップを開催した。

令和5年10月28日 コンポストワークショップ 参加者25名など
〔デジタル〕デジタル技術の知識・スキルの習得を図ることを目的として、ノーコードツール「Glide」を活用し、アプリやwebサイトを開発するワークショップを開催した。

令和6年2月11日 ノーコードワークショップ 参加者13名など
〔木工クラフト体験〕自然を身近に感じ、環境を大切にする意識や、手作りで愛着のある製品を長く使う意識の醸成を目的として、マイ小物入れ作り体験のワークショップを開催した。

令和6年2月18日 木工ワークショップ 参加者10名など

●アドバイザーリーボード会議の開催

事業を円滑に推進するに当たって助言等を受けるため、国内外で活躍する有識者により組織するアドバイザーリーボードを設置し、SDGs 未来都市の取組みについて意見やアドバイスをいただいた。

A photograph showing a group of people, including children and adults, sitting around a long white table. They are focused on their laptops, which are open in front of them. The setting appears to be a modern, well-lit room with large windows in the background.

A photograph of a meeting or workshop. Several people are seated around a table, looking towards a large screen that displays a presentation. The room has a contemporary design with wooden accents and large windows.

4) 対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値						
〔達成率＝R5 実績値÷R5 目標値×100〕						
K P I ①	市内大学卒業生の県内就職率					
	事業開始前 ⇒ 令和 7 年度	R 5 目標値	R 6 目標値	R 7 目標値	R 5 実績値	R 5 達成率
	19%⇒ 22%	19.5% (+0.5%)	20.5% (+1.0%)	22% (+1.5%)	21.0% (+2.0%)	108%
K P I ②	提案型 SDGs 協働事業の実施数					
	事業開始前 ⇒令和 7 年度	R 5 目標値	R 6 目標値	R 7 目標値	R 5 実績値	R 5 達成率
	0 事業⇒10 事業（累計）	(R 6 年度に事業実施)	3 事業	7 事業	—	—
K P I ③	地域の拠点を活用したリスキリングワークショップの参加者数					
	事業開始前 ⇒令和 7 年度	R 5 目標値	R 6 目標値	R 7 目標値	R 5 実績値	R 5 達成率
	0 人 ⇒ 160 人（累計）	30 人	50 人	80 人	154 人	513%
K P I ④	市民・企業向け環境ワークショップの参加者数					
	事業開始前 ⇒令和 7 年度	R 5 目標値	R 6 目標値	R 7 目標値	R 5 実績値	R 5 達成率
	0 人 ⇒ 300 人（累計）	50 人	100 人	150 人	93 人	186%
事業の効果						
☒	地方創生に非常に効果的であった	☐ 地方創生に相当程度効果があった	☐ 地方創生に効果があった	☐ 地方創生に効果がなかった		

5) 実績値を踏まえた今後の方針	
☒ 追加等更に発展させる ☐ 事業内容の見直し(改善) ☐ 事業の継続 ☐ 事業の継続の中止 ☐ 予定通り事業を終了	(理 由) SDGs 未来都市ののいちの推進に向け、提案型 SDGs 協働事業をはじめ、全庁をあげて取り組みを進めるとともに、関係機関と連携の上、ワークショップを中心に事業を展開し、ワークショップの受講者には知識やスキルのデジタル証明である“オープンバッジ”を発行することで、モチベーションの向上につなげていく。